

令和6年度 岐阜県青少年育成審議会第1部会 議事録

日 時	令和6年11月20日(水) 10:00~11:30
場 所	岐阜県庁議会棟 第2会議室
出席者	<委員> 9名 (欠席委員1名) 大橋委員、春日委員、栢之間委員、坂井委員、杉山委員、高井委員、 深谷委員、村瀬委員、森川委員 < 県 > 7名 河村私学振興・青少年課長、中島少年課長、宮部学校安全課生徒指導企画監 他

会議の概要

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 審議事項
 - ・第5次岐阜県青少年健全育成計画(素案)について
- 4 閉 会

議事の概要	
発言者	発言
大橋部会長	<p><議事録署名者の指名> 大橋部会長が深谷委員と森川委員を議事録署名者に指名した。</p>
事務局	<p><第5次岐阜県青少年健全育成計画（素案）について（説明）> 審議事項「第5次岐阜県青少年健全育成計画（素案）」について、事務局から資料に基づき説明した。</p>
大橋部会長	委員の皆様からご意見をいただきたい。
森川委員	<p>この概要案の3ページにインターネット空間が学校や職場、地域よりほっとできる場所、居心地のよい場所になっているとある。素案の51ページに、それに関する具体的な数字があるが、計画期間中の5年間でより注視していくべき視点であると思う。何をもち、子どもたちがインターネット空間をほっとできる場所として見ているのかを具体的に示すものがあれば、教えていただきたい。そもそも、これがいいことなのか悪いことなのかという判断も難しいと感じているので、事務局の方でこれに関する調査などあれば教えていただきたい。</p>
事務局	具体的な資料は持っていないので、今後子どもたちとの意見交換等を実施して把握していく。
森川委員	<p>子どもにとっての安心感がネット上であるということが、ゲームの相手とのコミュニケーションが楽しいということであれば、依存に繋がってしまうと思う反面、色々な居心地のいい場所があってもよいのではないかと感じている。この辺りは今後よく見ていくところだと思う。</p>
村瀬委員	<p>今の学校は、休み時間が授業よりも緊張を強いられる空間になっていて、友達の前で自分をさらけ出せない。その反面、インターネット空間では、自分の嫌な側面、性格、容姿といったものとの関係なく、好きなことだけで交流できる。</p> <p>我々が考えるほっとする空間は、学校、家庭、地域のように、人が集まる3次元空間のみに求めるという時代では、もうなくなってきているのではないかと思う。悲観的な言い方になるが、もうそういう時代になってきたので、ネットにおいても、そこで健全な活動をしてもらえるような手立てというものがなくなるだろうと感じている。</p>
大橋部会長	<p>学校現場では、コロナ禍があり、子どもたちが人とどのように最初のコミュニケーションをとっていくかという力が非常に弱くなってきていると実感している。自分の思い</p>

	<p>よりも、自分がどう周りで見られているかが学校で過ごす一番重要なポイントである。</p> <p>今の生徒指導は、昔のように横着な生徒を指導していくというものよりも、人間関係がうまく作れない子たちをどうサポートしていくか、どういうふうに出していくかというところが主眼になっていることが多い。インターネット空間は、いい人達ばかりではないので、そこを逆に利用されてしまうと、だまそうと思えばだまされてしまうので、そういうところもしっかり教えていくということが大事だと思う。</p>
宮部企画監	<p>問題行動調査の結果では、小・中学校で、暴力行為件数が増加している。特に低学年で増加している。また、不登校も小・中学校合計で8年連続過去最高値となった。人間関係形成においてうまくコミュニケーションが取れず、トラブルになり、暴力に繋がっているということが課題になっている。</p>
春日委員	<p>就学前からの教育は大事である。子どもたちがネット環境にたいへん親しみやすい時代になっており、タブレットが子守役にもなって家庭の中の一部になっている。子どもたちは自然にそれを受け入れているので、ネットの使い方や恐ろしさなどについての教育を小さい頃からしていかなければならないと思う。</p>
高井委員	<p>15歳から19歳では、72%がインターネット空間を居場所だと感じている。年齢層を見ながら対策を講じていく必要があると思うが、調査外となっている15歳未満の人たちがどう考えているかの調査を行うべきと考える。それによって、もっと幼少期から対策を行っていく必要があるなどの判断もできると思う。</p>
宮部企画監	<p>本体資料の11ページから13ページにかけて、学校安全課で行った情報モラル調査を掲載しており、ホームページでも公開しているので、参考にしていきたい。</p>
深谷委員	<p>不登校の児童生徒がどんどん増えている。中学を卒業しているが、実態は不登校でほとんど行っていないなど基礎的な学力に困難を抱えてしまったまま社会人になっていることも多いと思うので、そういったところをカバーしていくという視点が必要だと思う。学び直したい気持ちになったときに学べる場所や機会があるといった情報提供やメタバース空間を作っていくことも検討していきたい。</p> <p>第4章の基本方針I(1)「自己形成のための支援」について、学校教育の話なのか、社会教育の話なのか、曖昧であると感じている。</p> <p>自己形成のための支援という言葉自体が、わかりづらいと思った。自己というものは別に、何か特段の支援をしたから形成されるものではなくて、生きていく中で経験した出来事すべてによって形成されていくものである。</p> <p>そういう意味合いでは、自己形成のための支援というよりは、キャリア教育として、基礎的汎用的能力として4つの力を育むという支援にしたほうがよいと思われる。</p> <p>同じく(2)「自己実現の支援」について、文化、芸術、スポーツだけでなく、今の時</p>

宮部企画監	<p>代を主体的に生きていくというのが求められているという点で、アントレプレナーシップを若者が持っている方がよいと思う。</p> <p>※アントレプレナーシップ…「起業家精神」の意。身近な課題を発見し、解決のアイデアを考える創造性等を指す。</p> <p>本体資料の 6 ページに、「不登校の児童・生徒のうち学校内外の機関で相談指導を受けていない割合」というのがあり、令和 5 年度の実績で小学校 42%、中学校 48.4%となっている。教育委員会としては、不登校が問題ではなく、様々な居場所にも繋がっていないような子に対する様々な環境づくりを一番大切にし、その一つとしてバーチャルの支援をしているところである。</p>
坂井委員	<p>確かに基本方針は、学校教育と重複する部分もあると思う。</p> <p>基本方針 1 は、前向きなものであるので、予算を取っていただきながら、施策を進めていただきたい。</p> <p>基本方針 2 は、目に見える困難さに対する施策というような整理になるかと思うが、一番重要なことは、発見と相談であると感じている。色々な機関と連携する中で共通意識を持つこと、例えば不登校、或いは潜在的な不登校の子どもたちをどう見つけていくかというのが、一番重要な点になるかと思っている。不登校の数字が上がることが直ちに問題ではないが、学校教育でないと学べないものも多い。不登校が減るに越したことはないが、増えたからといってそれをどうやって減らそうかという議論ではなかなか解決しないため、それぞれの子に合った機関や手段が必要である。岐阜県でもコロナ禍のときにオンライン授業などを随分使ったことで、不登校の子の保護者から感謝の言葉をいただいたことがあったので、そういう環境をどう作っていくかということについての議論を進めていただきたい。</p> <p>基本方針 3 は、インターネット空間が現実存在している中、子どもたちにとっては緊張感のある学校生活以外に、ネット空間を選択できるようになってしまっているというところが一番難しいと思う。その中で、どんな社会環境を協力して作っていくか。安全安心なインターネット利用という第一段階的な理解の次に、青少年自身がネットとどうつき合うかを見直すかというところが一番難しいところであると思うので、その点を意識しながら、施策を進めていただきたい。</p> <p>数値目標は、前回に比べてすっきりして読みやすく、良くなったと感じている。例えば 7 ページの体力テストについて、前回計画では総合評価 D・E の児童・生徒の割合で表示されていたものを、後ろ向きな部分を無くそうということで、新体力テストにおける総合評価 C 以上の児童・生徒の割合になり前向きな表記になっている。そのような表記になったことで、理解しやすくなった。</p> <p>1 つ質問であるが、岐阜県内におけるインターンシップの参加学生の目標値が 3,000 人となっているが、現在 3,046 人となっている。既に達成した数値以下の目標値が設定されている理由を教えてください。</p>

事務局	<p>担当課に確認をしたところ、毎年3,000人を目標としており、もっと増やそうとしているわけではないとの回答であった。</p>
坂井委員	<p>目標値だけ見ると、一般の方が見たときに下がったと思われてしまうので、表記の仕方を考えるとよい。むしろ指標名として、参加学生数3,000人以上と書くのはどうか。そうすれば、毎年達成したという表記になり、誤解されるようなことはないのではないか。</p> <p>また、前回の計画と比べて、犯罪等の被害、非行防止が項目立てられているのでよいと思う。以前は、困難を有する生徒たちへの支援として、被害防止、保護というタイトルだったが、闇バイト等の犯罪に加担してしまう問題は誰にでも起こりうるため、時代にあった犯罪防止として形になっている。</p>
村瀬委員	<p>基本方針Ⅲ取組方針の項目の中で、「青少年自身がネットの使い方を見直し」と表記があるが、これ自体が悪い印象を与える。例えば、「青少年自身がネットの使い方を自ら考え」といった、前向きな表記にしてはどうか。</p>
大橋部会長	<p>事務局の方で検討いただきたい。</p>
深谷委員	<p>概要版の7ページ数値目標の岐阜県内におけるインターンシップの参加学生数について、大学生であれば数値目標はいらなと思う。キャリア教育的に一番課題になっているのが、普通科高等学校の職場体験やインターンシップの実施率が非常に全国的にも芳しくないことである。県内の普通科高校のインターンシップ実施率などの方がより現実的な数値目標だと思う。</p>
大橋部会長	<p>インターンシップの参加学生数は、大学生のみで高校生は入っていないのか。</p>
河村課長	<p>インターンシップ協議会が出している数値であり、高校生は入っていない。</p>
宮部企画監	<p>当課は担当課ではないので、正確なことは担当課へ聞いていただきたい。ただ、職業科高校であれば、何人かインターンシップする学生がいたりするが、最近は教育実習の様な形で高校生が小・中学校へ体験することもある。そうしたケースの場合は、数値として調査に入っているかは分からない。</p>
大橋部会長	<p>普通科高校の高校生がインターンシップに行く場合、看護師を目指している子が看護の病院体験等をするのがあり、その数値を毎年県に報告している。また岐阜県の教員の魅力を伝えて、岐阜県の教員になりたい人を増やすという目的で、普通科を中心とした高校生に支援員という形で市町教育委員会が募集をかけて行っている施策もある。</p>

	<p>当校で何人参加したという報告は受けているが、県内で集約されているかどうかは定かではない。</p>
深谷委員	<p>今時の大学生は、全員が就職活動の一環として、インターンシップを体験している印象がある。この目標数値について詳しく教えていただきたい。</p>
事務局	<p>岐阜県インターンシップ協議会が出している数値となる。素案 71 ページの一番下に表記されているとおり、県内の経済団体、学校、行政の連携により設立された岐阜県インターンシップ推進協議会の連携により、大学生等に県内企業でのインターンシップの機会を提供する事業が行われている。</p>
深谷委員	<p>協会を経由してインターンシップをやっている学生の数と理解した。自分からインターンシップ先企業を探していつている学生は入ってこないとなると、指標としてどうなのかと感ずる。</p>
杉山委員	<p>当社ではインターンシップで大学生をよく受け入れている。岐阜県情報産業協会が岐阜県インターンシップ推進協議会と連携をしてインターンシップの充実を図ろうと取り組んでいる。ただ実際には、岐阜県インターンシップ推進協議会を通して企業は少なく、1社1社の企業努力でインターンシップの充実を図っている。</p> <p>目標数値について、前回計画の数値に対する実績数値が出され、それを受けて次の計画の数値が示されているが、過去の実績数値や達成度、進捗状況などを踏まえながらも少し反映させるとよいと思う。</p> <p>また、同じような論点になるが、理想として目標数値が100%とか0%を掲げるのはいかなものか。行政サイドで数値が決めづらいなどあると思うが、もう少し現実的な目標数値を掲げて、それに真摯に向き合ってやっていくという考え方の方がよいのではないか。</p> <p>最近では、インターネット、SNS、GIGAスクールなど、コンピューター業界も変化が盛んに起きている。教育では、子どもたちのITリテラシーを高くしていく、DXセンスをつけさせるなどの方針で打ち出されている。インターネット空間が居心地がよいというのは悪いことではないというのも事実であるが、はまり過ぎてしまってはいけない。</p> <p>インターネットがきっかけで犯罪とかに巻き込まれてはいけないという複合的な側面もあるので、安心安全なインターネットについて、論点の深掘りをしっかりやるのがメインテーマになってきていると思う。非常に難しいテーマであると思うが、もう少し踏み込んだ記載なり、考え方なりを入れていったほうがいいのではないかと感じている。</p>
坂井委員	<p>この素案の構成として、第4次計画のもと、様々な施策を実施したというものがあり、</p>

<p>森川委員</p>	<p>58 ページの課題認識ということでまとめられていると思う。提案であるが、例えば、第4次計画の骨子を概ね維持をされているのであれば、インターネット環境という社会の変化等を強く認識して、それを第5次計画に打ち出したという表現を入れてはどうか。</p> <p>現在の状況を踏まえ、次の5年間はこういう時代になる。だから我々は、このように取り組んでいくということを書かれた方が読みやすいと思う。第5次の計画が第4次のものとほとんど変わらないのであれば、インターネットがより子どもたちの生活と大きく関わってくるという問題を前面に出して、これに対してはこう対応するというようなものを作った上で、網羅的に全体を紹介していくほうがよい。</p> <p>例えば、概要3ページにある、3つの青少年を取り巻く現状について、1と3はインターネットであるが、2は困難を有する青少年への対応という違う要素のものが入っており、インターネットを意識した計画素案にはなっているが、少しそこが見えにくい状況であるため、何か工夫ができるとよいと思う。</p>
<p>大橋部会長</p>	<p>本日は、委員の皆様方から貴重なご意見等いただいた。進行を事務局にお返しする。</p>
<p>事務局</p>	<p>多数のご意見を賜り、感謝申し上げます。本日の意見を踏まえ修正した上で、来月12月2日に開催予定の第2回審議会でも再度ご審議を賜りたい。12月13日のパブコメに向けて、計画策定を進めていく。</p>